

廿日市市生涯学習推進方針策定に関する 職員研修会 ニュースレター vol.4

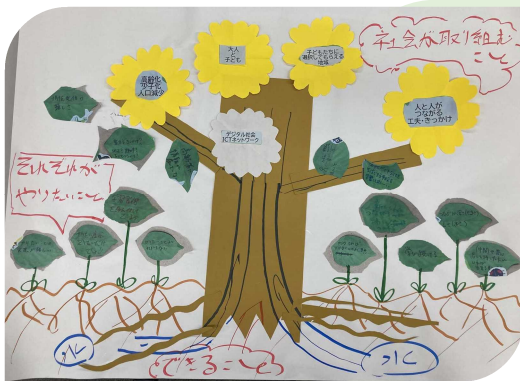
第4回 職員研修会 日 時：令和5年12月19日(火)13:30～16:30 場 所：中央市民センター 多目的ホール
参加者：32名（職員28名・社会教育委員4名）

第4回職員研修会では、第2回で12のキーワードから広げた「方針策定に取り入れる理想・アイデア」（葉）を起点に、これまでの研修から改めて廿日市市の生涯学習で「大切にしたいこと、大事だと思うこと」（枝・幹）を考えました。

檜谷邦茂さん（一般社団法人 小さな拠点ネットワーク研究所）のファシリテートで、枝や幹を加えて木を形にするグループワークを行い、最後に各グループがつくりあげた「生涯学習の木」に込めた意味やストーリーを共有しました。



生涯学習の木のイメージ ～大切にしたいこと・大事だと思うこと～ *グループワークより*



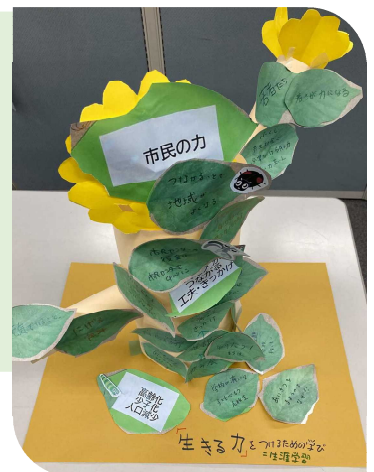
《やりたいこと、できること、やらなければいけないこと》

個々人の「やりたいこと」という小さな樹木がたくさんあると根が張り土が保持されて「社会が取り組むこと」「社会の課題解決」という大きな木が根を張ることができる
やりたいことがたくさんあるとしっかりした土壌がつくれ 生涯学習の木が育っていく
みんなでやるけど お世話をするみたいなのところも必要



《高齢化・少子化・人口減少》

市民の力を引き出す
人と人がつながる工夫・きっかけを行政がつくり、
つながることで地域が良くなって、
市民の力もついて花が咲く
「生きる力」をつける学びが生涯学習
食べること、しゃべること、学ぶこと
生涯学習すべてが生きる糧になる



《人生100年時代》

人生100年生きようと思ったら
一番大事なのは心身の「健康」
そして最後に残るのは友達、話をする人たち

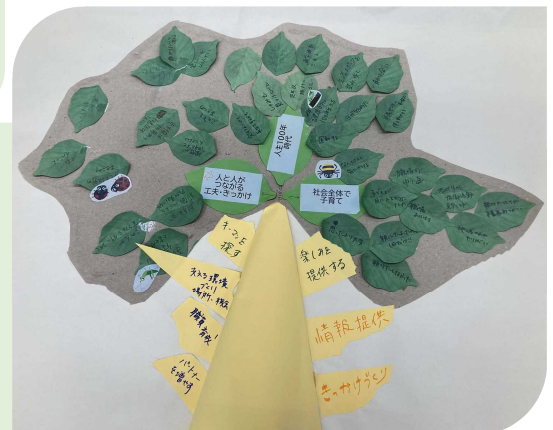
根元は家族。家庭教育をしっかりすることによって
社会教育や学校教育がうまくいくのではないかな

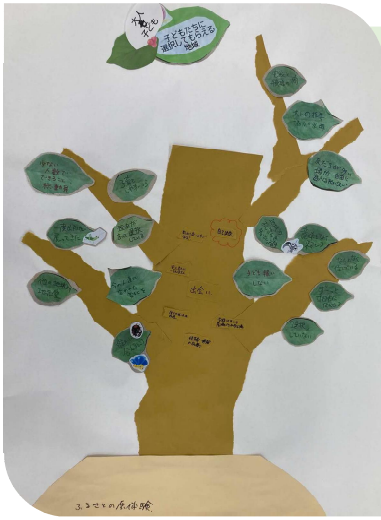
《社会全体で子育て》

幹が行政で、葉が市民活動のイメージ

できたらいいこと、こんなのがいるよねという葉っぱを実現していくための
下支えとして一番力を発揮しないといけないのが行政
幹（行政）は下支えをするために、
いろんなことをキャッチしなければいけない

* 楽しみを提供する、情報提供、きっかけ作り、キーパーソン探し、
場所・機会づくり、職員育成、パートナーを増やす、
知ってもらうための情報発信 **



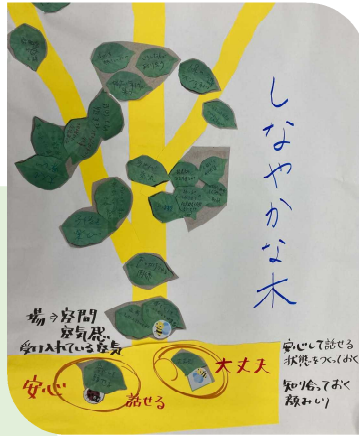


《大人と子ども》 《子どもたちに選択してもらえる地域》

子どもたち自身が自分で決定できる、自分自身に選択肢があるような場づくりが必要
多様な人に出会える場の経験や体験が必要
ふるさとの源体験をさせてあげたい
未来の子どもたちが幸せであってほしい、その願いは誰もがみな一緒
その土壌には、大人がしっかり生きること、正しい背中を見せること

《多様性・共生社会》

土壌として「安心」「話せる」「大丈夫」という状態つくっておくこと
空間・空気感・受け入れられている
雰囲気づくり
解決までには至らなくても、
少し前に進めるようなきっかけになること

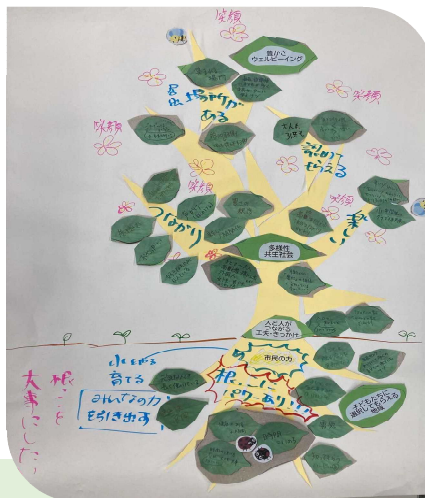
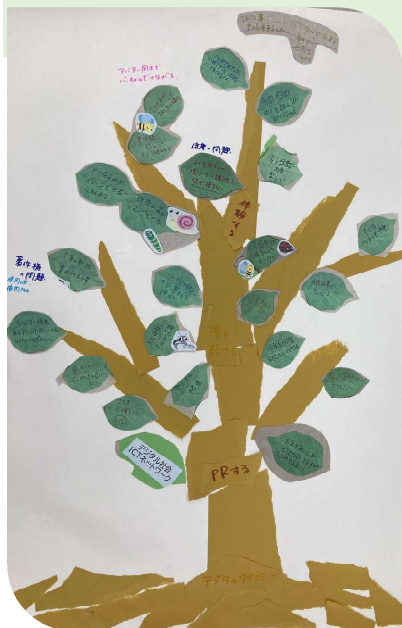


《公共施設・行政だからできること》

学ぶ機会を得られない人たちに対してこそ、
社会教育の意識付けや機会の提供が必要では
必要なものを必要な人に届ける
行政のリソースを使う
人と人とのつながりがインフラ、
今後築いていくもの

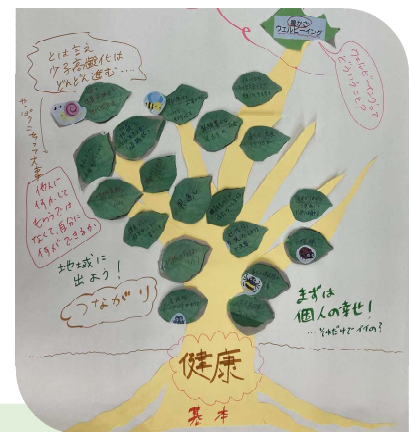
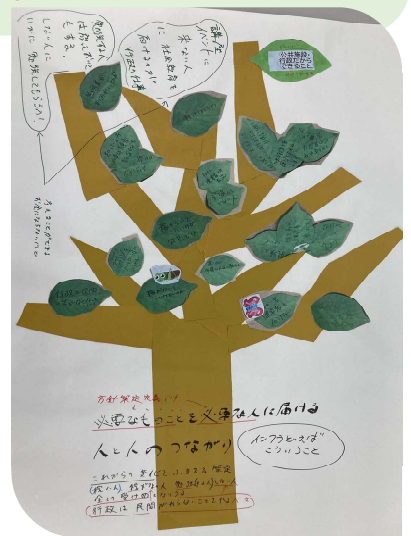
《デジタル社会・ICT ネットワーク》

バーチャルだったら、市内とか
同じ地区に限らず例えば世界とつながるとか、
体を動かして外に出るのが難しい人とも
つながれる
そういう世界を目指していければ
便利だね、楽しいよねというのを知ってもらう、
教えたりすることを、市民センターだったり、
行政だったり、お手伝いできるのではないかな



《人と人がつながるきっかけ》 《市民の力》

豊かさ・ウェルビーイングは成果
やっぱり一番大事なのは市民の力
市民の力が根っこに深くある
ベース、大前提としてあって物事が豊かになる



《豊かさ・ウェルビーイング》

自分が幸せでないと他人を幸せにできないので健康が大事
他人に何かしてもらうのではなく、自分に何ができていうことが大事
最終的にたどり着いたのは、ウェルビーイングは「みんながニコニコの状態」

檜谷さんより 今回の職員研修は、社会教育委員を含めて社会教育や生涯学習に関わるいろいろな立場の人が参加したことが特徴。社会や地域の中では、多様な立場の人が一緒に話をしながら形にしていけるということが起きます。その中で、行政の方々が一歩引くのではなく、一緒に手を動かして探り、実際にやってみて意味付けや価値付けをするような作業を繰り返していくようなコミュニケーションを、いっぱい増やしていけるといいなと思います。